

優良賞

せたな町立北檜山中学校 3 学年 やまもと 山本 はづき 葉月
捨てられていく命



皆さんは動物の命の大切さを考えたことはありますか。

世の中には、飼っている犬や猫を無責任に捨てる飼育放棄という言葉があります。

どうして、命をポイ捨てするようなことが起きてしまうのでしょうか。私には理解できません。

コロナ禍での自粛期間中に癒しを求めてペットブームが起きました。いいことのように感じるかもしれませんが、それは様々な考え方の人が飼うということになります。自分勝手な理由で簡単に保健所に引き取りを頼んだり、ネットに里親を募集したりする人がいます。中には、段ボールに入れて捨ててしまう人もいます。また、これについてはあまり知られていませんが、無責任な遺棄行動は法により罰せられることもあります。

また、殺処分という言葉もあります。もし仮に飼育放棄ではなく、保健所に引き取りを頼んだとしても、それがいい判断だとは言えません。なぜなら、引き取られた犬や猫は里親が二週間以内に見つからなければ殺処分されるからです。また、里親になるには厳しい条件があるため、簡単には里親は見つかりません。そのため殺処分される確率の方がとても高いと言えます。

私の友達に、生きたまま川に捨てられ、流されていた子猫を助けた人たちがいます。そのうちの2匹は保護することが出来ましたが残りの2匹は既に亡くなっていたそうです。このことを知って、彼らの行為は動物の命を尊重している証拠だと感じました。一方で、この町にも命の大切さを理解できない人がどこかにいるのかと思うと悲しく、許せない気持ちになりました。

私は実際に犬を飼っていて「生き物を飼う」というその大変さを、日々実感しています。私の飼っている犬は「マロン」といいます。マロンとの出会いのきっかけは、新聞の記事でした。そこには、「6歳のパグを引き取ってください」の文字。こういった場合、もし引き取り手がなかったら、殺処分されてしまうことが多いそうです。家族で相談し、引き取ることになりました。引き取り当日、家族で函館に行きました。私の中では、引き取られるような犬は、吠えて突然襲い掛かってくるような凶暴なイメージがありました。ですが、実際に会ってみると、とても人懐っこくて驚きました。この子と共に生活していくことを想像すると、嬉しい気持ちになりました。毎日の散歩がとても楽しみでした。しかし、マロンについて詳しく話を聞くと、これ以上、子供を産ませられない「繁殖引退犬」として引き取り手を募集していたとのことでした。繁殖引退犬とは、ペットショップにいるような、子犬を生み出し、その役目を終えた親犬です。繁殖のために妊娠、出産を繰り返すため、体への負担は大きいといえます。見た目は元気そうでしたが、歯はボロボロで、食べ物は噛まずに飲み込んだり、繰り返しの出産で出血が止まらないなど、やはり辛さを抱えて生きていることも目の当たりにしました。マロンは一所懸命生きています。殺処分の可能性がゼロではなかったと思うと、言葉では言い表せない切ない気持ちになります。マロンは、我が家に来ることができましたが、同様の立場の生き物や、飼育放棄されてしまう動物たちも7います。実際に殺処分されてしまう動物は年間で約1万4千もいるといわれています。

このように、飼育放棄や殺処分は意外と私たちの身近にあります。命ある動物はともかくかわいたため、気軽な気持ちで飼うことを選ぶ人も多いでしょう。ですが、飼い主側の癒されたいという気持ちだけでは、生き物たちが幸せになることはできません。命あるものを飼うということを理解しなければ、生き物を飼う資格はないと、私は思います。また、「飼う」ということはペットショップに限らず、引き取ることもできます。いず

れにせよペットにとって唯一の存在になるという、揺るぎない覚悟が必要だと思います。これらを踏まえて、生き物と向き合っしてほしいのです。あなたは一つの命を、終わらせることも、救うこともできるのです。決して命を軽くみてはいけないことを伝えたい。少しでも、飼育放棄と殺処分を減らすために。